

令和元年度「にこまちフォーラム」開催報告

- 日時 令和2年2月15日(土) 13時～16時(開場12時)
- 場所 西公会堂 ●参加者 327名
- テーマ 「にこやか しあわせ つながる地域」
- 講師 西尾 敦史(にしお あつし)氏(愛知東邦大学人間健康学部 教授)



導入講義

日本は、友人や同僚など人と滅多に付き合わない人が多く、社会的孤立が深まっており、とりわけ子どもの孤立が進んでいます。お互いさまのコミュニティづくり、子どもたちが地域に関わりながら活躍し、地域の中で育てていく必要があります。このような課題を視点において各地区の発表をお聞きいただきたいと思います。

地区活動報告

《第一地区》

担い手の確保として、自治会をはじめ各団体の協力を得て、担い手となる方の得意なことを活かしたり、負担を軽減するなど、誰でも参加しやすい方法を考えました。今後は広報活動に力を入れます。



【西尾先生のコメント】

わいわいランチやキッズハロウィンなど子育て世代との関わりや担い手の発掘につながる取組を企画する側が丁寧に雰囲気づくりに努めていることがよくわかりました。

《第三地区》

「おでかけ3」は、人と人、人とまちをつなぐ移動手段として一昨年9月から始めました。現在では利用者とのコミュニケーションもよく、約1,200名がご利用されました。また、ユーチューブを活用した情報発信も行っています。



【西尾先生のコメント】

「おでかけ3」は、「外出困難者支援」という地区の課題を解決するため、地区の資源や強みでもある「福祉施設の多さ」に着目したとても特徴のある取組です。

《第五地区》

「ジュニアボランティア5」は、やりがいや責任を持って地域のイベントなどの手伝いにいきいきと楽しく取り組みました。今後は、様々な団体とコラボレーションして、地区全体が活気にあふれるよう進めていきます。



【西尾先生のコメント】

「ジュニアボランティア5」の活動をとおして、子どもたちが、地域の多様な方と出会ったことはとても貴重な経験です。子どもたちが将来、この経験を活かして、地域に貢献できる取り組みだと思えます。

《第二地区》

ラジオ体操やウォーキングなど長年継続している取組を大切にしていることで、地域のつながりづくりができています。今後も学校、地域、施設などと連携して進めていきます。



【西尾先生のコメント】

ラジオ体操やウォーキングは、誰でも参加しやすい取組且つ多くの方と出会えます。ダイバーシティ(多様性)とインクルージョン(包み込む)を実践されている取組です。

《第四地区》

子どもたちに地域の行事に関心をもってもらうことや、日常では体験できないことを経験してほしいとの思いで、とうもろこしやじゃがいもの収穫体験、三ツ沢活動センターでの宿泊体験を企画しました。多くの子どもたちと担い手が集まり、楽しい企画となりました。今後も継続していきます。



【西尾先生のコメント】

収穫体験は、学校や家庭で経験できない社会教育という経験ができています。子どもたちが周囲の環境から学習する力がつき、とても良い取組です。

《第六地区》

にこにこ広場、こども食堂、学習教室は、始めることが目的ではなく、子どもたちのために自分なら何ができるかという視点から考えて生まれました。現在は参加者も多く、担い手が担い手を呼んでくるほど集まります。



【西尾先生のコメント】

にこにこ食堂や学習教室などは、できること、得意なことなどで参加できるので、担い手も楽しく取り組んでいることがわかります。継続して取り組むためには大事なことがわかりました。

裏面あり

こどもの地域活動発表&にこまちのうた

○大道芸で「まち」に笑顔を！ ～一本松小学校 6年1組～

学校での学びはもちろん、夏祭りや餅つき、子ども会など、様々な場面で地域の方々と関わってきた6年1組の子どもたち、「自分たちができること」として、「大道芸」を通して「まちに笑顔を広げよう！」と計画し、一年間取り組みました。

まず、子どもたちは大道芸を教えてくれる人を探し、教えてもらい、努力の末に習得した技を地域のイベントで披露しました。「技が成功したこともうれしいけれど、お客さんみんなが笑顔だったことのほうがうれしい」、「もっとまちの人の笑顔が見たい」、子どもたちは自治会の役員さんなどを頼り、披露先の開拓を始めます。その中で、様々な立場の人々が「まち」に対して自分ができることを取り組んでることに気が付きました。

「これからも地域の行事に参加したい」、「運営の立場でも参加したい」、春から中学生になる6年1組の子どもたちの声に、会場の大人たちも元気付けられました。

フォーラムの最後では、「にこまちのうた」を会場の皆さんの歌に合わせて大道芸を披露してください、フォーラムの締めくくりの花を添えました。



「人を笑顔にする」つもりだったのに自分が笑顔になっていることに気がついた。

「あいさつ」も「友達を作る」ことも、「スポーツを楽しむ」ことだって「わたしにできること」のひとつ。みなさんも「できること」から始めませんか？

ホワイエ

今と昔の西区写真展！

現在の写真と昔の写真を展示し、多くの方が足を止めてご覧になっていました。



作業所コーナー

作業所の紹介パネルの展示と、にしまるちゃんグッズの販売をしました。広く作業所を知ってもらい、良いきっかけになりました。



3R夢コーナー

子ども達が一生懸命に自分だけのおえかきコースター作りを楽しんでいました。



防災について考えよう！

起震車で関東大震災と同じ「震度7」を体験しました。



子どもたちの今日から私にできること

西区の子どもたちが書いた今日から私にできることを展示しました。多くの子どもたちが見に来てくれました。



子どもから大人までみんなで遊ぼう！ 積み木と布絵本

時間を忘れる程夢中になって楽しんでいる子どもたちが多かったです。



お口の健康コーナー

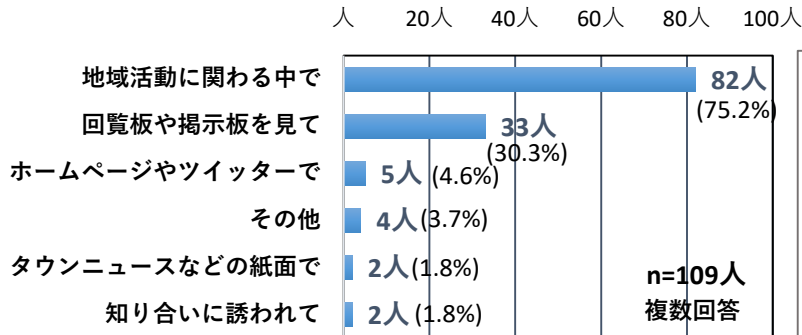
来場者の皆様にお口の健康グッズとして糸ようじを配布しました。また子ども向けに顔出しパネルのフォトスポットも展示しました。



令和元年度「にこまちフォーラム」アンケート

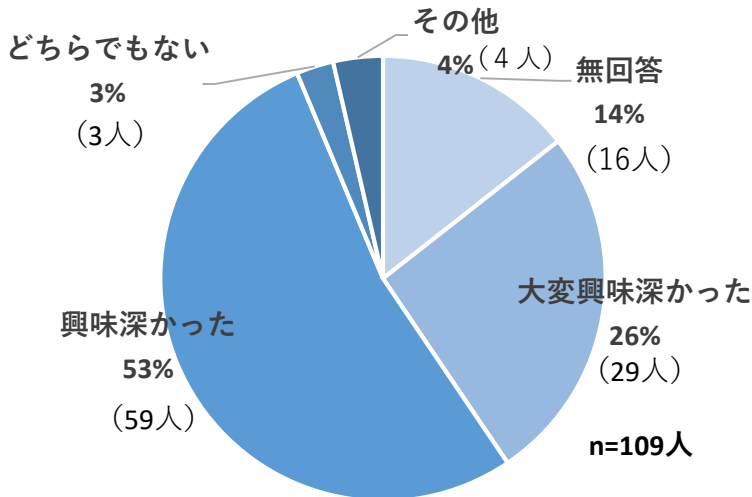
開催日 : 令和2年2月15日(土) 13:00~16:00(開場12:00)
 参加者数 : 327人 アンケート回答数 : 109件

●フォーラム開催を何で知りましたか？



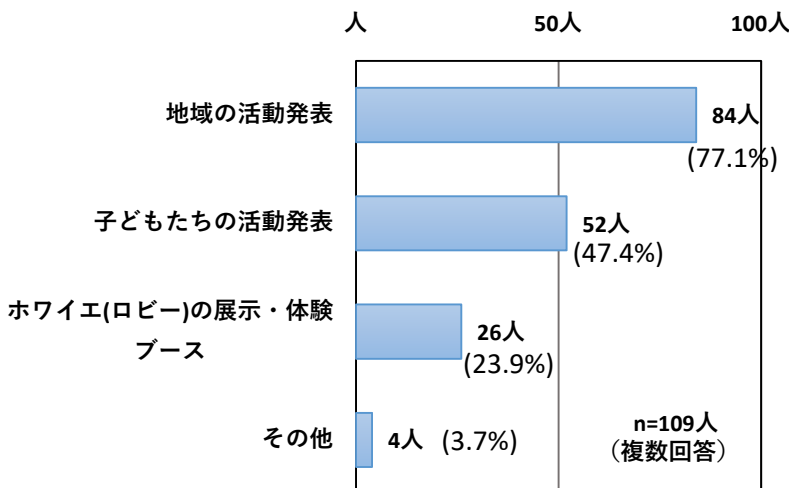
地域活動に関わる中でフォーラム開催を知った人が7割5分(75%)を占めました。合わせて、回覧板や掲示板を見て開催を知る方も3割程度(30.2%)いらっしゃいました。

●フォーラムはいかがでしたか？



「大変興味深かった」「興味深かった」を合わせると、約9割(89%)の方は、「興味深かった」と答えています。「テーマがはっきりしていた」という声や、「实际的な活動に繋がると良い」というような意見がありました。また、より若い世代の参加を期待する声もありました。

●どのような内容が印象に残りましたか？

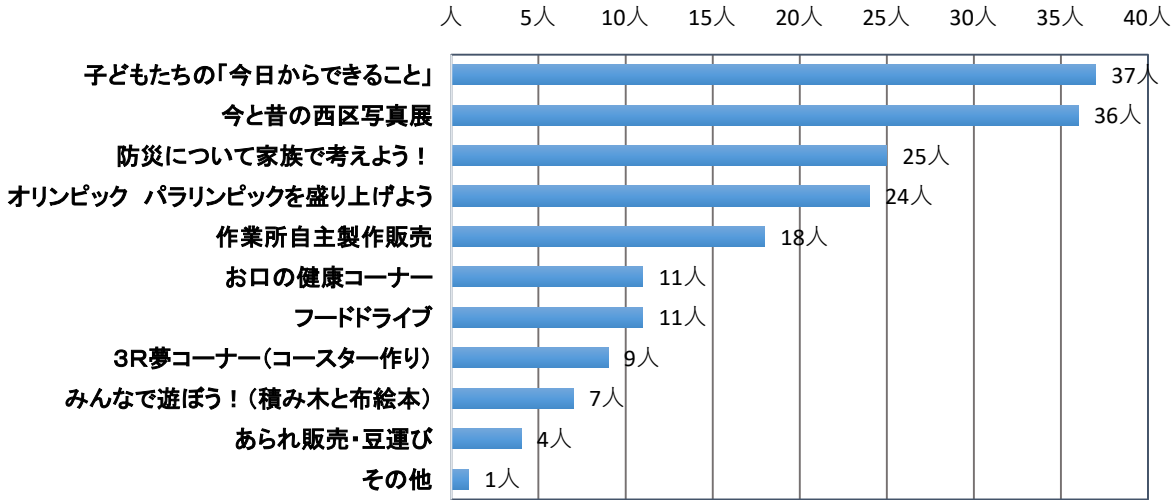


8割近く(77.1%)の方にとって、「地域の活動発表」が印象に残ったようです。また、回答者の5割近く(47.2%)の方が「子どもたちの活動発表」が印象に残ったと答えており、次世代を担う子どもたちの発表に参加者が勇気づけられたようです。

【意見】(自由記載より)

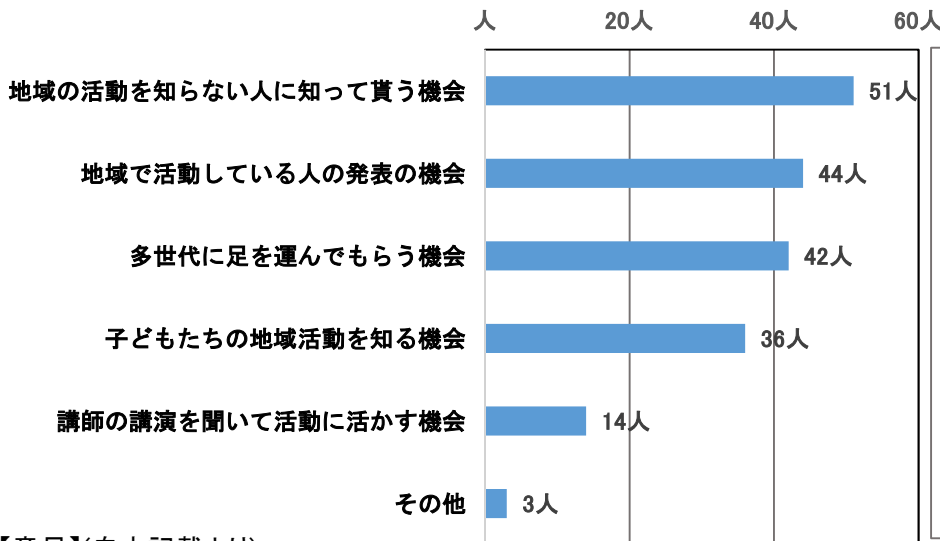
- ・西尾教授の導入講義が興味深かった。
- ・実際の生活に結び付く行動に発展するとよい。

●ホワイエの内容で印象に残ったのはどれですか？



ホワイエでは「子どもたちの今日からできること」や「今と昔の西区写真展」「防災について考えよう！」など、幅広い分野について関心を持ってもらえました。多世代に参加して貰うためには、どのようなコンテンツを盛り込むとよいかを今後も検討します。

●どのような「フォーラム」が行われるといいと思いますか？



回答者は、フォーラムが「地域で活動している人の発表の機会」とすると同時に、「地域の活動を知らない人に知って貰う機会」となればよいと考えています。そのためにも多世代に足を運んでもらう工夫が必要であり、子どもたちの地域に向けた取り組み発表を取り入れることは、その可能性を高めるようです。

【意見】(自由記載より)

- ・西区の課題(強味、弱味)を考えこれからのあるべき展望より具体的な取り組みを実現できればと考える。
- ・出来るだけ地区で活動している沢山の方の声を聞きたい。
- ・多世代に足を運んでもらい、なおかつ交流できる場づくりを希望します。

●ご意見・ご感想

- ・担い手づくりには「声かけ」が必要(大事)だということが分かりとても参考になりました。
- ・どこも「人」「かね」「物(場)」の確保に工夫をされていることが伺えました。
- ・各地区の発表もよいが、第一～第六地区全体で活動に関して講師とのディスカッションをするとよい。
- ・若い世代の出席が欲しい。
- ・今まで来たこともない人、関わりが無かった人が参加してみようと思えるようなフォーラムだとよい。
- ・子どもたちの取り組みを知る事ができて良かった。大人の気づかないことを教えてくれた。
- ・実現にこぎつけ目標を達成することの大切さを実感した。大人たちがもっと子どもたちに目を向けよう。
- ・一本松小学校の生徒さんが最後に伝えたことが、計画全体をまとめていると思う。まさに、自分が出ることから始める、大切なことと再認識した。